

はじめてのソーシャルアクション

現場に学び、現場を創る！

第17回 2月20日(水)午後7時から午後9時 於:セッション

講座タイトル:「自分のソーシャルアクションプラン発表会」

学習支援者: 広石拓司 (株)エンパブリック代表取締役

学習支援補助者: 手塚佳代子

NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー代表

学習支援者 手塚

今日は、みなさんの学びの振り返りと今後の活動や目標を発表して頂きます。宿題にあったシートに書きこんで、後で順番に発表してください。順番は、窓際の方から発表していただきます。30秒になりましたらサインをお送りします。持ち時間は3分です。タイトルと名前を最初にお願いします。それでは、よろしくお願いします。

「シニアボイス昭和を語ろう」のワークショップをやりました。古希を迎えた時に、昔の思い出を残そうと文集にしました。これが、とても楽しくて、良い経験になりましたので、これをみんなで共有したくて始めたのがキッカケです。高齢者は聞けば話をしますが、自分から話しをする機会が少ないです。ワークショップを通して、参加者の皆さんが楽しんでいるのを感じ、また語るチャンスと伝える機会をもっと提供できたらと気づきました。今後は、大人塾の経験をいかして、今年の5月に第2回をしてみようと思います。これから1、2年には、数回やって記録文章に残したいと思います。

全体を通して感じたことは、情報収集と発信を学んだと思いました。コミュニケーションですね。お互いに収集と発信をして、こうして人のつながりができました。つながりは我慢だとおもいます。我慢ができない人は、閉じこもってオタクになってしまうでしょう。他人の話を聞くのも、我慢だと思います。人それぞれ個性が違いますから、ワークショップの最後のまとめや、決めていくのには手法的に限界があるのかなと感じています。大事なものは、主体は誰なのか。「みなさんが考える」という言い方が多かったのが気になりました。「わたしがいいたい」も必要だと思います。これからは自分が住んでいるところをどうするか考えようと思っています。町を考える井戸端会議をしたいです。まずは、自分の地域からスタートして、手伝い型のカフェができると良いなと思っています。

ワークショップは本当にわからないところから始めました。右も左もわからないときに、教えていただき、仲間と一緒に学んでいく貴重な体験をしました。東京五輪の昭和39年の時は、私も小学校でした。話を聞いていても、あまり実感がわきませんでした。でも、まったくわからない時代を調べてみると、次第に実感が生まれてきたのがよかったです。それと、私は杉並で生まれ育ってはいなかったのですが、杉並の当時のことを知れたのも新鮮でした。当日のワークショップでは、高齢者のみなさんが話す姿がとても若々しくパワーを感じました。こういう場は必要なんだと思います。ただ、集まってきた方が知人ばかりだったので、これからは誰でも気軽に集まる場が必要だと思っています。今回のチームの団結力は本当にすばしかったです。チームでは最年少だったのも、普段は経験できないことですから楽しかったです。開催方法はわかりませんが、調べたことを生かして、ゆうゆう館を渡って実施したいです。それから、記録の文集を作って、みなさんの話をまとめていきたいです。

なんで大人塾に参加したかという、地域への関わり方がわからなかったからです。ながらく実家に帰っていなかったのですが、地域のことがわかりませんでした。でも、大人塾のおかげで、1つ結論ができました。私は実家に帰った方がいいなということです。近年、父親が亡くなり、母親が認知症になりました。母親の認知症を認めるまでに何年もかかりました。それに介護の問題もあります。いままで地域への参加ができなかったのですが、ワークショップをとおして仲間と何かを創るのが、自分の力になると感じました。現在は、週末に介護をするために実家に通っています。実家に帰ってから何をするかわかりませんでした。介護福祉士を取るという目標ができました。

やっぱりみなさんと同じように、ワークショップが楽しかったです。今後も続けられたらと思います。町歩きのマップを創って、実行しました。私は西荻窪を周りましたが、こんなところにお店がある、こんな道があるんだと、発見がいろいろありました。また、メンバーのおかげで、いろんなイベントを教えてもらって、参加もできました。朝市や夕市などに参加して、つながりが増えたので大切にしたいです。これからは、西荻窪をもっと深く知りたいし、もっと伝えたいと思っています。紙だけを扱う小さなお店や活版印刷のお店や知らないお店がたくさんあります。

夜コースを作って、ワインバー巡りも良いですね。今は空き家プロジェクトに参加しています。いい空き家がみつかったので、ここを使っていきたいです。少し夢が大きいかもしれませんが、やがては渋谷大学のようなことを西荻窪でできたらと願っています。

あまりまとまっていなかったので、絵にしてみました。大人塾に参加するために、バスに乗って、家からセッションに来ています。定期的に、家から出て、学びに行くというサイクルが在宅で仕事をしている私にとってはメリハリとなりました。杉並って、愛されてるんだなと感じました。また、いろんな年代の話を聞いたのが良かったです。今まで感覚的にやってきたので、ワークショップやディスカッション、大人塾の中で相互関係、気づきなどの意識が芽生えたのが貴重でした。4月までに頭の中のゴチャゴチャを整理して、順番に実行していきたいです。小さなことですが、これからは惹かれたお店や場所、人に怖がらずに近づいてみようと思っています。そんな気持ちに変わってきました。5年以内に、自分が抱えていること、考えていることを解決できるような拠点をもちたいと思います。

様々な意見を聞いて、地元のことを真剣に話せたことが収穫でした。チームやワークショップの仲間と話せたことで、地域の問題が世代を問わないで共通の問題だとわかりました。グループでの話し合いでは、意見のすりあわせを目指して、腹を割って話しました。これがすごく大切だと思いました。初めは「ソーシャルアクション」の意味は分かりませんでした。楽しくやっていくのが大切だとわかりました。性格的に、マジメにやらなきゃいけないと考えてしまっていたのですが、こうあるべきではなく、意外に柔軟にした方が上手くいくと気付いたのです。住む人がこの町を好きとシンプルに伝えることも大切だと理解しています。これからは、40代、50代にむけて、むかし食べ物研究会をやっていきたいです。また、その街が好きな人が出会う地元婚も開催したいと思っています。それと、不定期開催ですが、お酒を呑めるコミュニティバーも開きたいです。

60年代生まれを対象にしたワークショップをしました。最初は不安でしたし、いきなりあって話せるかわかりませんでした。同年代の話が通じるんだなとわかりました。また、いきなりすごく親しくなることはないともわかりました。打ち合わせをしている時に思ったのですが、話が通じてくると、だんだん楽しい雰囲気になりました。今まではコミュニケーションのことを考えたことはあまりなかったです。でも、今回の経験で自分の立場だけではなく、相手の立場を考えてコミュニケーションが出来てきたと思いました。ワークショップや体験の、より深い理解につながると思います。これからは、60年代生まれのお花見会をやろうと思います。人を集めて何かをするということであれば、サイエンスの勉強、留学生をまじえた勉強会をやろうと思っていますし、シェアハウスも考えています。

自分の思いに人が募って、かたちになったのはうれしかった。聞こえる人はどうせわからない。聞こえない人には手話がないと話せない。近年は、通訳の機械が発展しているが、人の心にバリアがお互いの理解を隔てていると思います。このワークショップを通して、メンバーの意識が変わってきました。その様子を見ていると、バリアも変わる可能性があるんだと期待が持てました。相手を想像できない不安がバリアの原因なのではと思っています。でも、この不安が楽しさになるとワークショップを通して分かりました。ダイアログ・イン・ザ・ダークに仲間と一緒に参加したいとおもっています。それと、座高円寺で聞こえる人と聞こえない人が楽しめるイベントのスタッフをします。1年以内にもう一度やってみて、また答えを探したいです。聞こえる人、聞こえない人がパズルのようにつながっていき、社会もそうなっているんだなとワークショップを通じて言えたらと思っています。

ワークショップがわからないまま、参加してみました。大人塾に参加したキッカケは紹介ですが、仕事柄、音楽を通して地域とつながっていきたいと思っていました。杉コンにもボランティアスタッフとして参加してみました。地域イベントがどのように創られるか興味深かったですが、裏方はとても大変と痛感しました。今回は、言葉を使わないワークショップを作りました。音がなくても伝えるということに興味を覚えたから始めましたが、思った以上に難しいテーマでした。ワークショップを通して、聞こえない人と接したときにどうしたらよいんだと、相手の立場、相手の気持ちを考えることの大切さに気付きました。音のない中で伝える時に、言葉の大切さを感じました。これからは、事業と大人塾での経験をいかしてセミナー開催ができるコンサルタントになりたいです。何かをやりたいという人のお手伝いですね。また、1年以内に本も作ってみようと思っています。

休んでいたら、急にワークショップのチームに入れられてしまいました。最初はわからなかったが、チームとして何かをやることを学びました。一番驚いたのは、みなさんの熱意。雪の日にみんなで集まったのがすごいと思いました。お知らせや情報共有など、情報ツールの改善はした方がいいと思います。これからは、4月に震災後の女子高生を描いた映画の自主上映会を友人が行うので、その手伝いをしようと思っています。また、セミナー開催や朝活なども継続してやっていきたいです。

都市農業にずっと興味がありました。当時のことですが、杉並高校にはプールがなかったので、東田中学校のプールを借りていました。高校に行く途中の道は、一面畑でした。あれだけあったのに、今はなくなってしまったのが不思議で仕方ありません。長年の想いがありましたので、とてもいいチャンスと参加してみました。ワークショップは何をするかわかりませんでしたが、杉並区で農業をやっている方が集まったのは、すごくうれしかったです。参加者も、熱い思いをもった方が集まり、大変勉強になりました。今、杉並保健所で健康づくりリーダーをやっていまして、30代の女性を対象にしたセミナーをやっていきます。これからも、こういう働きかけをやっていきたいと思っています。

引きこもりで暗い性格なんですけど、たまたまチラシをみたのがキッカケで大人塾にやってきました。千葉県の浦安から杉並に引っ越してきましたが、だいぶ慣れて来て、地域の交流を地道にやっています。自発的に、ポジティブに行動できたり、相手の気持ちに立って考えることもできるようになったかなと思っています。ワークショップやイベントで、農業の大切さ、食の大切さに気付きました。かつては野菜をスーパーでなにげなく買っていましたが、今では作る方の有難さ、大切さを噛みしめています。アクションプランは、仲間と一緒に消費者と農家の交流などをやっていこうと思います。支援団体なども、3年以内に作れたらと考えております。

気が付きが4つあります。地域課題を考える視点を得られました。また、仲間との共同作業で自分の得意不得意がわかりました。ワークショップをやったときに、特に感じたのですが、仕事の際は均質な内容と対象を意識しています。しかし、地域の問題やワークショップとなると、不均質な相手に対して話しかけないとなりません。仲間との出会いが得られたのも大変価値がありました。アクション宣言は、大人塾の経験をいかして、学会発表をしたいと思っています。環境教育学会では、ツールとプログラムが中心の発表が多くなっています。そこで、地域課題を解決するテーマで発表したいと思っています。先の話になりますが、地域課題解決の学校を創ってみたいです。

実際の農家の方から、いろんな現状や問題点を聞いたのが良かったです。後継者問題、都会の中での農業の困難などがわかりました。ワークショップでは、感心をもった人が集まったので良くてきたと思っています。自画自賛ですが、また、熱心な参加者からエネルギーを貰いました。農家の方みんな、農協で、一丸になったら良いなと思っています。今後は、ワークショップやセミナーをやっていきたいです。農家が減ってきた危機感を感じています。年内に活動プランを仲間と一緒に作りたいです。今は、何もありませんが仲間と一緒に作っていきますので、みなさんどうぞよろしくお願いいたします。勉強会や料理教室もやりたいと考えています。

食と農のワークショップに参加しました。農家の久保田さんの話を聞いて、改めて地産地消を実感しています。ずっと食に関わってきているので、杉並の農をつなげていきたいと思います。西荻窪のかがやき亭に話したら、興味を持ってくれました。大人塾に参加して、みんなでやることの大切さを感じました。これからは、食と農をつなげる仲間を増やすことをしていきたいです。

ゴールに向かって何かをやる経験はありましたが、今回のようにワークショップを通して、一緒に積み上げて行く経験はありませんでした。これができたのは、すごく良かったです。みんなで作っていくのは、まどろっこしいところもありますが、近道じゃないところに気付きがあると発見しました。とても良い経験ができました。今後はわかりませんが、確実に自分のためになったので、何かに繋げていきたいと考えています。

学習支援者 手塚

聞いていて、今までのことを思いだして涙がでそうです。みなさんの振り返り力がすごいです。みなさん自身が自分を良く振り返られたなと思います。コミュニケーションのことには私も広石さんも触れませんでした。みなさんが感じた機会が多かったんだなと思いました。話し合っても難しいですね。利害関係なく、丸腰でぶつかっていきま。ぶつかって、意見が合わなかったこともありましたが、今はその経験を話せていますよね。それは、解決になっているからだと思います。

私も街づくりのお手伝いをしているので、どこかでお会いできる機会があると思います。やりたいテーマには、やりたい仲間、やっている先輩が必ずいます。そういう方と出会って、話を聞いてみるのも良い経験になるでしょう。近い活動をやっている団体があるなら、聞きに行ってください。ワークショップをやった皆さんなら、度胸がついているはず。少人数で活動するのも楽しいですが、継続はしません。そこで、ゆるやかな

ネットワークを組んだり、どこかにネットワークを組めるような人がいると知っていることが大切です。先輩は情報を持っているので、それを聞いてきましょう。また、「あの人には、こんな情報があるかも」と思ったら、情報を伝えてあげてください。連絡先の交換やメーリングリストを作ったり、交流できる機会も作れますよ。人に上手く出会えると、自然と上手くいくことが多いです。こういう世界では、楽しくないと続きません。楽しく感じれば、長く続きます。みなさんのアクションプランが実現することを願っています。

学習支援者 広石

皆さんが学んだことを発表して頂きましたが、「学習支援者 広石さんの話が良かった」と誰も言ってくれませんでしたね。実は、これって意味があることです。学校だと先生が言われたことが学びになります。しかし、こういう場では自分が学んだことが学びになります。みなさんのアクションが経験になり、学びになるのです。学習支援者という名前は素敵だなと思いますが、本当は講師の方がラクなんです。一方的に伝えれば良いだけです。学習支援者は、学びを阻害しないように、且つ学びを促進する役目です。学習の支援になるにはどうすれば良いのかなと、間合いを学ばせてもらっていました。2002年に社会企業家のためのプランづくりをしていて、講義をした後にアンケートをとったら、「話は良かったが、長い」と言われました。たぶん、参加している方たちは聞いているだけではなくて、話したかったんでしょう。他の人がどんなことを考えているかをみんな知りたがっている。習いに来ているのではなく、学びにきているんだなと思いました。食と農を例にすると、プロにきいてみたり、農業に興味を持つ人と農家の方の出会いの場を作りました。作らなかつたら、学びにならなかつたと思います。シニアボイスの時も、わからない昔のことを自分から調べましたよね。調べたから、会話もできます。皆さんは、学びを自分たちで創ってきたのです。僕たちは学びを提供していましたが、今はみなさんが自分で学びの場を創っています。

それでは、最終日の発表者を決めるので、共感した方に投票をしてみてください。



学習支援者 広石

開票まで時間があるので、総評をしていきたいと思います。

まず、「シニアボイス」の皆さんから。高齢者の発表の場は、確かに少ないですね。講演会を聞きに来て、終わってしまっています。話すのはハードル高いですが、一回やってみると楽しくなります。話を聞いて、話せる機会もありますよというスタンスが参加しやすいと思います。OZさんも言うておられましたが、「わたしが」ということが大切です。他人を批判するときに、他人事みたいに言う人も多いですが、大事なのは自分からということです。「わたしが好き」は、大人になると言いにくくなってきます。社会人になると、好き嫌いをいっちゃいけない風潮になっているのです。そういう状況の中で、「わたしがいう」というのは本当に大切だと思います。調べて学ぶだけではなく、話そう教えようと思うと、さらに学びますよね。

「男の手仕事」のODさん。地元に戻るという選択を選んだ中で、仲間とやってきたことが力になったのは素敵だと思います。つらい体験だけではなく、その体験から学んだことを社会に生かせるということは貴重なことです。人間は、何かしら話したい伝えたい動物です。話すことでつながり、誰かのためになることもあります。患者スピーカーバンクという、患者の経験を他の人に伝えようという活動があります。病気から学んだことを伝えることで、誰かの役にたっているのです。

このチームは、アクティブなTHさんがいたからこそまとまった感じがします。いろんなイベントに参加できるようになったとお話しされていましたが、大人塾の仲間と出会っ

てから、世界を広げるきっかけとなったなと思います。

また、ITさんが、家とセッションの往復が楽しいと話されていましたが、通い続けるということが大切です。それと、良いなと感じたものに怖がらずに近づくのは素敵です。新しい世界が広がりそうですね。

「60年代生まれ」チームのことは心配していましたが、本当に良く出来ていました。契約や仕事だと本音を言わなくてもできてしまいますが、地域のことは本音で関わらないとできません。TMさんが、ぶつかりあったと今、話せていることが、すごく大切なことです。KTさんも、最後にすごく熱心に加わって頂きました。シェアハウスをしたいというのが印象的です。ぜひ世界を広げてください。

「にぎやかな沈黙」チームのFSさんは、途中からの参加で初日にいきなり企画をつくってもらいましたね。人の心にはバリアが多いです。外国のことは他人事になりがちで、知らない国で戦争をしていても気にしない人が多いでしょう。でも、外国に友達がいるだけで外国が外国では無くなります。違う視線が生まれるのです。障がいのある人を何人知っているかで、接し方は自然と変わっていくと思います。バリアを乗り越える方法は必ずあると信じています。TNさんは、FSさんを良く支えていらっしゃいましたね。やりたいことがある人を支えるのも、活動のひとつ。そういう人がいないと、活動は生まれませんし、継続しません。

「杉並の農」を考えるチームですが、KSさんは朝活などやっていらっしゃる経験から、チームの議論で疑問点をスムーズにぶつけていました。第三者視点は、すごく大切です。活動の経験があるからこそその意見だったんだなと思います。

STさんは、他のメンバーが食の方に話がブレそうになった時も、農についてやりたいと一貫して言っていましたね。TDさんは、みんなの調整役としても、縁の下の力持ちとしてもすごく頑張っていましたね。TDさんで印象的だったのは、夏休み明けに、「レポートしていないけど、今日行かなかったら、ずっと行かなくなる」と話されていたのを覚えています。何かしら理由をつけて一回行かなくなると、ずっと行かなくなります。

TDさんが、「今日も来ました」と言っている姿が感動的でした。YDさんは、オリエンテーリングを採り入れたり、面白いと思ったことを実行するところがすごく素敵です。理論的に地域活動をまとめることは素晴らしいことです。ぜひやってみてください。みなさん、ひとりひとりの姿を見ていると、本当に印象的でした。ここで得た知識や経験をいかして、何かやっていただきたいです。

学習支援者 手塚

さて開票しますね。各チーム、TMさん、ODさん、TDさんと分散していました。決まらなかったシニアボイスは分担を話し合ってください。各チームの発表が4分、個人が2、3分。ワークショップにわかれていただいて、総括をいう方を決めて頂きたいです。お帰りまでに、誰が発表するのか、みんなで発表するのかを教えてくださいね。当日は1人100円の参加費をお願いします。最後に広石さんから、締め言葉を頂きたい。今日は終わろうと思います。

学習支援者 広石

1年間ありがとうございました。ワークショップをやっていると、プロセスが大変なので、事務局もハラハラしていたと思います。無事に終わりましたので、どうかお二人に感謝の拍手をお願いします。終わってみると、ワークショップをやった良かったなと思うんですけど、途中は上手く行くのかと不安になりますよね。

僕が伝えたいと思っているのは、社会のことに受け身にならないことです。今の社会では行政、サービス、医療に対して、消費者意識が強くなっています。企業や行政がやってくれるはず、やってくれないと不平を言って諦めています。でも、「やってくれる」「誰もやってくれないから諦める」だけではなく、自分たちで創るという選択肢もあるのです。みなさんは、自分自身で創ってきましたね。ぜひ、これらも続けてください。無いから文句を言うのではなく、創っていく。創ろうとすれば、学べるし、創ろうとするからつながるんです。連携しようとする、かならずトラブルがおき、ます。トラブルを乗り越えてまで、やりたいことがあるのか。そこまで、一緒にできるのか。繋がらなくても自分でやったほうがラクだと、消費者意識だけで終わってしまうのか。他人と繋がってまでも、問題を解決していくことはすごく大切です。

みなさんがそれに気付き、実際に創ってきたのは素晴らしいと思います。この気持ちをわかちあえたのがうれしいです。みなさんは、ワークショップの体験を通して、他の人の学びを支援する立場になりました。ここからは、みなさんが主役だと思って活動して行ってください。

1年を通してやった活動ならではの意義があると思います。学んだこと、経験したことを自らに落としこんでいただいて、他の人に伝えてください。社会問題は、誰かが手を挙げて問題を指摘しないと、社会の中に埋もれてしまって気付かれません。その手をあげた人から、つながりが増えて行くのです。前年度の受講生もメーリングリストをつくって、緩やかに繋がっていましたよ。みなさんの中で工夫して、どうぞ繋がりを作っていきましょう。仲間がさらに広がっていくのは、人生にとって大切です。これからは、先生と生徒のような関係ではなく、地域で活動をする仲間であり、同土です。みなさんと、一緒に何かできたら幸いです。1年間どうもありがとうございました。